

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現を図る。</p> <p>○よりよく生きるための知識と理解を培う。 自分自身の病気に対して正しい知識を持ち、病状等を理解することにより、心理的に安定し病気を自己管理する力や病状に即した生活習慣を形成する態度とよりよく生活しようとする意欲を育てる。</p> <p>○学ぶ楽しさと学ぶ意欲を高める。 興味・関心・得意な分野等を自ら発見し、すすんで学習することによって得られる喜びをとおして、学びを大切にする態度や意欲を高める。</p> <p>○社会に積極的に参加し、自己実現をすすめる。 多様な体験を通して、コミュニケーション力やソーシャルスキルを身につけ、地域社会で周囲の人々とともに、積極的・自主的に活動し、自己肯定感を高め、自己実現をめざす意欲を培う。 「病気であること」「病気であったこと」を自己実現の学びの場ととらえ、それらを糧として成長する力を養う。</p>

2 中期的目標

<p>1 児童生徒一人ひとりの状況に合わせた学力向上と病気の自己理解による自立・自己実現への取組みの充実</p> <p>(1) 自立活動や総合学習を活用して病気の自己理解を進め、退院後の家庭や地域校での生活に積極的に参加できる力を育成する。</p> <p>(2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用の充実を図る。また、児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。</p> <p>(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、見通しをもって粘り強く取り組む力や他の児童生徒、教職員、医療関係者等との対話を通して自己の考えを広げ深めていく力の育成を図る。また、不足しがちな実験や観察などの体験的学習を補うため、各教科等で ICT を活用した授業実践を進める。</p> <p>(4) 児童生徒理解及び人権の擁護、保護者支援、個人情報の保護等、児童生徒が安心して学校生活を送り、自らの生き方を考えていけるよう、計画的・継続的に教職員研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>(5) 各種病弱教育研究会への実践発表に取り組むことにより病弱教育の専門性を高めるとともに、保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員の育成を図る。</p> <p>2 小・中で連続した、病弱支援学校としてのキャリア教育の推進</p> <p>(1) 小・中学生のキャリア支援において、学校全体のシステムを確立し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組むとともに、高等学校等との連携を図り進学後の支援についても連携体制を整える。</p> <p>(2) 地域校におけるキャリア教育と連携し、復学後、スムーズに教室に戻れるようにするとともに、病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討し、よりよく生きる力を育成する。</p> <p>3 継続支援及び地域連携体制の充実</p> <p>(1) 保護者や地域校及び医療と計画的なケース会議を実施し、適切な学習指導・生活指導・保健指導について四者間で共有することにより、入院時から退院後、進学後までの継続した支援を行う。</p> <p>(2) 地域連携部を中心に、地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後の教育相談をさらに推進する。</p> <p>(3) 病弱教育の理解を深める広報活動について、ホームページやリーフレット等の作成と配布並びに広報紙などを活用し、地域で生活している病気のある児童生徒へ教育支援を行う。</p> <p>(4) 「教育コミュニティ推進事業」を活用し、地域に対して「学びの場」の提供をおこない、支援学級との連携や病弱教育の理解啓発につなぐ。</p> <p>(5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。 教職員の働き方改革について安全衛生委員会を中心に検討し、多忙感の減少、風通しのよい職場環境の充実を図る。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 元年 11月～実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○対象：児童・生徒、保護者、医療関係者、教職員</p> <p>【児童・生徒考察】 ・全体的に肯定的な意見が多く、特に①②⑤⑥の項目で「そう思う」「だいたいそう思う」という割合が多かった。「児童生徒は学校に行くのが楽しい」、「授業が分かりやすい」と感じていると推測される。また、今年度は行事等に参加できる児童生徒が増え、楽しいと感じた割合が前年度より多かった。これらの結果からも学校の教員全体で児童生徒を見守り、関わりながら今後も分かりやすい授業を行なっていきたいところである。</p> <p>【保護者考察】 ・授業に関する 1, 2 の質問は二年連続で 97% の保護者が、「そう思う」「大体そう思う」と答えている。今年度は昨年度よりも 7% 前後増加している。日ごろから教科会議や部署内での協力によって、児童生徒に適切な指導をしていることが保護者に伝わっていると判断してもよいのではないだろうか。4 の進路について今年は適切な進路指導を行っていることを評価され「そう思わない」が劇的に減少した。</p> <p>【医療関係者考察】 ・結果については、ほとんどの項目で「そう思う」「だいたいそう思う」が 80% をこえており、概ね私たちの取組みへの評価をいただいている。特に学校教育の必要性については、昨年度に比べて肯定的な意見が 100% だった。</p> <p>【教職員考察】 ・全体的に肯定的な意見が 80% を超えている。第 7 項目（防災）が今年度は 77% にとどまった。それ以外の項目は 80% を超えており、特に第 4 項目、第 10</p>	<p>第 1 回（7/12）</p> <p>○ 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の内容は、命を扱ったものが多く、病弱の生徒については配慮およびチェックが必要ではないか？ ・道徳教育を柔軟にとらえ、自分の置かれている立場、今の子どもたちの立場を考えながら指導していくのがポイントではないか。 ・「魔法のプロジェクト」はどのような経緯で参加協力校になれたのか ・読書活動の推進で、バーコード化とはどんな取組みなのか？ <p>○ 中学部の修学旅行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度の生徒が参加でき、良い修学旅行になって大変良かった。 <p>○ 「魔法のプロジェクト」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔が見える交流ができてよいのではないか。羽曳野支援は複数の分教室に分かれているので、ひとつの共同感を持ちやすくなるのではないか。期待できる。 <p>第 2 回（11/20）</p> <p>○ 小学部の修学旅行について、令和 2 年度からの小中合同実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同実施により参加者 0 による中止を回避したい旨を理解いただいた。 <p>○ 全国病弱教育研究連盟発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城大会での実践発表に高い評価をいただき、大学での出前授業に繋がった。 <p>○ 避難訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何に弱いのかを知る必要がある。・教員の安否確認の方法を工夫すべきである。 <p>第 3 回（2/21）</p> <p>○ 今年度の経営計画の評価および来年度の経営計画について協議。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートについて報告。承認をいただいた。 ・平成 31 年度経営計画及び評価案を協議、承認いただいた。

府立羽曳野支援学校

項目、第12項目、第13項目の4つが、昨年度よりも大きく改善されている。	・令和2年度経営計画及び評価案を協議、承認いただいた。
--------------------------------------	-----------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力向上と自立・自己実現の取組み	<p>(1) 自立活動、総合的な学習を通じて病気の自己理解をすすめ、退院後の生活に積極的に参加できる力を育成する。</p> <p>(2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実及び児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。</p> <p>ア 個別の教育支援計画・個別の指導計画が有効に活用されるよう改善をはかる。</p> <p>イ 児童生徒の特長を伸ばす支援の確立のため、さまざまなアプローチについて研修をして技量を高める。</p> <p>(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現及び体験的学習を推進する。</p> <p>ア 地域校と連携した学習計画と ICT を活用した授業を推進する。</p> <p>イ 読書活動の推進</p> <p>(4) 児童生徒の個人情報の保護、安心安全な学校づくりの展開</p> <p>(5) 病弱教育の専門性を高めるとともに保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員を育成する。</p> <p>ア 府内及び他府県の病弱支援学校と連携し、教員の専門性向上を図る。</p> <p>イ 道徳教育の充実</p> <p>ウ 若手教員の授業力及び教員力の向上を図る。</p>	<p>(1) 全部署を通じて年間の実施計画を策定し、病気の自己理解、心の安定、について自立活動、総合的な学習で取り組む。</p> <p>(2) ア 昨年度の検討結果を踏まえ、自立活動部を中心に個別の教育支援計画・個別の指導計画の記載内容の充実を図る。昨年度策定した手引書に沿った記載を実践する。</p> <p>イ 児童生徒の特性に応じたアプローチについて検討し研修によりスキルアップをはかる。研修計画を年度当初に策定。</p> <p>(3) ア 地域校との連携により未学習部分を補い、基礎学力の定着を図ることで、児童生徒が粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。魔法のプロジェクトに応募し、機器を活用して全分教室をネットで結び交流をはかる。TV 会議の実施を行う。</p> <p>イ 今後、社会で求められる力である読解力の育成に向け、継続的に蔵書整理を進め、本校と分教室との相互貸し出しのシステムを構築するとともに、児童生徒の読書に対する意欲を高める読書企画を実施する。</p> <p>(4) 全部署で持出し簿の確認・文書発送時のダブルチェックを継続するとともにヒヤリハットを全教職員で共有。未然防止に取り組む。</p> <p>(5) ア 全国・近畿等の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有・情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。</p> <p>イ 道徳教育の充実を全部署ではかる。</p> <p>ウ 「病弱教育の専門性の向上のための研究」を3年間の研究テーマとし、教員が互いに学びあう機会を計画的に設ける。さらに、若手教員対象の研修を実施する。</p>	<p>(1) 全部署を通じて実施状況を調査し、実施回数、実施内容について報告を受ける。病気の自己理解、心の安定について役立つものであったかをアンケート調査。(肯定率 80%以上)</p> <p>(2) ア 年度当初に、全教員で記載内容について共有を行い実践。昨年度策定した手引書が活用され記載にいかされているかアンケート調査を実施 (肯定率 80%)</p> <p>イ 研究部を中心に研修計画に沿って研修を実施。アンケートにより効果測定。(肯定率 80%以上)</p> <p>(3) ア すべての児童生徒について、地域校と連携し、学習進度及び未学習部分の確認を行い、授業に取り入れる。ICT を活用した授業を全部署で実施し、インターネットを利用して各分教室をつなぎ交流授業を実施。(最低1回以上)</p> <p>イ・蔵書整理(夏季休業中～)及び相互貸し出しシステムの実施に向けたネットシステムの構築。(本年度中に完成)</p> <p>・読書活動推進委員会を中心に全部署が関わる企画を実施。</p> <p>(4) 持出し簿等の記録を集約し記載内容を確認(各学期)。運営委員会・全校職員会議で毎回、意識啓発を行う。ヒヤリハット事例の共有を徹底する。(個人情報に関する事故事案0を継続)</p> <p>(5) ア 全国大会で病弱教育における体育の授業について実践発表。大阪病弱教育研究会加盟校として、府内の病弱教育担当教員を対象に研修(8月)・教材交流会(1月)に参加。</p> <p>イ 道徳教育の実施状況をアンケートで調査(各部署での実態を共有、前年比増)</p> <p>ウ 全校研修(年間3回)を実施するとともに、新転任者を対象に社会人マナー、事務関係研修を充実、業務上必要な基礎力アップをはかる。</p>	<p>(1) 全部署の年間実施計画に沿って実施できた。実践は研究誌に記載自立活動、総合的な学習が自己理解・心の安定に役立った 85% (○)</p> <p>(2) ア 全校研修で手引書を用いて指導計画作成のワークを実施。作成に役立つ (90%) (◎)</p> <p>イ 研修計画通りの研修を実施できた。効果的な研修であったとの評価が高かった。(90%) (◎)</p> <p>(3) ア 地域校との連携 100%、全部署で ICT 活用の授業を実践。インターネットを活用して各分教室をつなぎ交流授業を3回実施して好評を得た (◎)</p> <p>イ 蔵書整理、本校図書室の蔵書すべてに、バーコードシールをはることができた。分教室の蔵書5部署についてはバーコード整理が終わっていない。(△)</p> <p>読書横綱、読書の木など啓発活動に取り組めた。(○)</p> <p>(4) ヒヤリハット事案が2件発生したものの、再発防止策を徹底して事故事案0を継続できた。(○)</p> <p>(5) ア 全病研での発表で高い評価を得た。また学校協議会でも報告し、大教大での出前授業にもつながった。(◎)</p> <p>イ 伝達研修を実施。各部署とも前年度よりも回数、内容とも充実した。(○)</p> <p>ウ 計画通り全校研修を実施。新転任者研修では、施設見学を含む1日研修が高評価であった。(○)</p>
	キャリア教育の推進	<p>(1) 小・中学生の進路支援において、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組む。</p> <p>(2) 病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討する。</p>	<p>(1) 中学部の評価・評定システムを基に、小学部児童の評価・評定システムの検証を継続し、観点別評価の充実をはかる</p> <p>(2) 病種によって将来必要となる生活の在り方が異なるため、各部署の状況に応じたキャリア教育に関わる取組みを行う。</p>	<p>(1) 教育課程の変更に伴い、進路支援部を中心に教務部と連携し、観点別評価が適切に実施できているか検証する。(アンケート等で肯定率 80%以上)</p> <p>(2) 自立活動等の時間を活用し、キャリア教育に関わる内容を実践交流する。「(将来の夢)意見発表会など実践を各部署で実施し冊子にまとめる)</p>

府立羽曳野支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">継続支援及び地域連携体制の充実</p>	<p>(1) 保護者・地域校・医療と連携した継続支援を行う。</p> <p>ア 保護者・地域校・医療と連携したケース会議を実施。</p> <p>イ PTA 行事の推進</p> <p>(2) 地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後の教育相談をさらに推進する。</p> <p>ア 訪問教育の広報強化。</p> <p>イ 退院後の状況の把握</p> <p>(5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。安全衛生委員会を中心に教職員の働き方改革をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 保護者、医師、地域校との連携のもと、児童生徒の状態に合わせて、ケース会議を行い、スムーズな復学をめざす。</p> <p>イ 保護者と児童生徒が共に過ごせる機会を設けるとともに、保護者間の交流が図れるよう内容を検討し実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 他病院で治療を受けている児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、訪問教育についての理解促進を図る。</p> <p>イ 退院、卒業後の状況を把握し必要に応じて支援・助言を行う。</p> <p>(5)</p> <p>ア 災害時の対応について、年度途中だけでなく、入級時に保護者と確認を行う。</p> <p>イ いじめの早期発見に向け、病棟と連携して、日々の連絡の中で、気になる状況があれば共有し確認。いじめが明らかになった時にはいじめ対策委員会で迅速に連携対応。</p> <p>ウ 安全衛生委員会によるストレス解消、メンタルヘルス等についての研修、レクリエーション企画等を実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 医師との連携によるケース会議の実施 (100%継続)</p> <p>イ PTA 行事の評価アンケートで保護者間交流肯定率 80%以上</p> <p>(2)</p> <p>ア 小中学校養護教諭研究会で訪問教育について説明する機会を増やす。(南部の各市町村、3カ所以上で実施)</p> <p>イ 退院後アンケートによる状況把握の増加。(回収率 50%)</p> <p>(5)</p> <p>ア 入級時の確認事項に、災害時の対応確認を追加 (保護者との確認 100%)</p> <p>イ 年度当初に、いじめ対策委員会について全教職員で確認。校内研修の中にいじめ対応に関わる内容を入れる (年間1回)。</p> <p>ウ 職員のストレスチェックで示される指標について前年度より改善されているか。(改善箇所1か所以上)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 全部署で適切なケース会議を実施できた。(○)</p> <p>イ 5部署で PTA 行事を実施し、参加者が交流できる企画であり、アンケートは行わなかったが、好評を得た。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 訪問教育について説明 (富田林、和泉、泉大津) 実施 (○)</p> <p>イ 退院後のアンケート調査 回収率 35% (△)</p> <p>(5)</p> <p>ア 入級時に全員に確認事項として、災害時の対応確認を 100%実施できた。(○)</p> <p>イ 年間計画通り校内研修を実施し、確認できた。(○)</p> <p>ウ 職員のストレスチェック結果の詳細は産業医の分析待ちであるが前年度より改善 (職場の同僚からのサポート) が見られた。(○)</p>